

「夢を育み、感動・笑顔・歌声あふれる学校」



学校教育目標

おおらかで、たくましく
進んで学ぶ子
地域とともに生きる子



新座市立東野小学校

令和8年 2月27日(金)

TEL:479-7280 ホームページ

FAX:482-6794 QRコード



立つ鳥跡を濁さず

校長 齋藤 伸一

三寒四温を実感する時期となりました。寒い日もありますが、だんだん暖かい日が増えてきて、1年生の植木鉢のチューリップも芽を出し始めました。春本番を思わせる暖かさと冬の名残の空気の冷たさが繰り返されていますが、一步ずつ確実に春の足音が近づいてきているのを感じています。

さて、早いもので令和7年度がもうすぐ終わろうとしています。1年生から5年生は、今の学年が終わり、4月から次の学年に進級します。6年生は、中学校へ進学となります。そこで、「立つ鳥跡を濁さず」ということわざについて話します。このことわざは、「立ち去る者は、見苦しくないようきれいに始末をしていくべき」という戒めで、「引き際は美しくあるべきだ」ということを表しています。水鳥が飛び立った後の水面が濁らず澄んでいる様子に由来すると言われ、去る者がその場に迷惑や混乱を残さず、きれいに後始末をして立ち去るべきだという教えでもあります。

このことわざから私自身思い出すことが、サッカーの世界カップでの、日本のサポーターがスタジアムのゴミ拾いする姿や選手によって清掃された試合後のロッカールームの様子です。

ワールドカップにおけるサポーターの試合後のゴミ拾いは、かなり前から有名です。日本代表がサッカーの世界カップに初めて出場したのが1998年フランス大会で、それから7大会連続で出場しています。そのときから日本のサポーターが、応援に使ったブルーのゴミ袋に身のまわりに散らかったゴミを拾い集めて持ち帰る姿が世界中から称賛を受けています。こうした行為に注目した海外メディアが以前日本人サポーターに「なぜ掃除をするのか?」と尋ねたところ、「片付けるのは当たり前」という言葉が返ってきて驚いたそうです。

そして、代表チームによる試合後のロッカールームの様子も以前から話題になっています。4年前のカタール大会で日本代表チームは、予選リーグから決勝トーナメント1回戦の全4試合、試合後はロッカールームをきれいにし、日本語とアラビア語で『ありがとう』のメモを残していたことは有名な話です。このことについて、森保監督は記者会見で「～『帰るときは来たときよりも美しく』と教えられてきた。日本の文化としては自分たちが使った所をきれいにし帰るのは、当たり前なことだと思っている。」と語っていました。



こちらの画像は、生成AIによるイメージ画像です

このように「引き際の美しさ」は、周囲の人々に好印象を与え、頼もしさを感じさせます。「立つ鳥跡を濁さず」ということわざは、「終わりがきたら、その場を後のためにきれいに整えなさい」という単純な意味だけではないと思います。これまでどのような行動をとってきたとしても、終わりがきたときには自分の行動を見直して、我が身を律することの大切さと周囲に与える印象を伝えているのだと思います。最後の月となるこの3月、一年間使用してお世話になった教室や机、椅子、ロッカー、靴箱などを次に使う人のためにきれいに整えるという環境面のことだけでなく、学習面や生活面において、今の学年で学んだことをしっかりと復習して身に付けて、忘れずに実践・行動していくことも「立つ鳥跡を濁さず」という考えに通じるものだと思います。残りの日々、教職員一同、子供たちがこの一年間をきちんと締めくくれるよう指導してまいります。

最後になりましたが、この一年間、学校応援団、PTA役員、関係機関、保護者、地域の皆様方には、大変お世話になり、誠にありがとうございます。引き続き本校へのご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いたします。